



トピックス 「セプソ、してますか？」



「沖縄連携によるサモア水道公社維持管理能力強化プロジェクト」が遂に開始されました。8月中旬よりプロジェクト調整員が、そして9月初旬にチーフアドバイザーがそれぞれ着任し、これから始まるサモアでの生活環境を整えつつ、プロジェクトの本格開始に向けカウンターパートのサモア

水道公社（以下、SWA）職員とともにプロジェクト実施方針や達成目標等を再確認しています。

ところで、“セプソ”（？）まだ聞き慣れない名前ですが、これは宮古島市役所の梶原健次さん¹に提案頂いたもので、プロジェクトの英語名称 "Capacity En-hancement Project for Samoa Water Authority in cooperation with Okinawa" の頭文字（CEPSO）をとったものです。長いプロジェクト名をコンパクトにまとめたこの呼び名を、SWA職員も気に入った様子です。今後はサモア国内だけでなく、日本の皆さんにも“セプソ”を発信していきます。

「沖縄連携によるサモア水道公社維持管理能力強化プロジェクト」

サモアの水道事業は、サモア水道公社（SWA）により運営されており、全人口の約85%にあたる約16万人が給水サービスを受けています。水源は比較的豊富に存在するサモアですが、高い無収水率²（60%以上）や雨季の濁水処理対応、水道料金徴収体制の未確立など、SWAは様々な課題を抱えています。これまで、沖縄県宮古島市による草の根技術協力事業「サモア水道事業運営（宮古島モデル）支援協力」や、沖縄県企業局が実施する課題別研修「大洋州島嶼における水資源管理・水道事業運営」への参加を通じ、SWA職員は基本的な漏水対策技術の習得と適切な浄水処理法の理解など一定の成果を得ることができましたが、SWA組織全体への知識・技術の普及は十分とは言えません。本プロジェクトでは、引き続き、沖縄県内の水道事業者による協力のもと、給水人口が最も多いアラオア給水区（約1.8万人）を対象に、適切な水圧管理や管路施工・漏水修理、漏水探知等による無収水対策、並びに水質管理体制の整備支援と浄水場の維持管理強化による水質の改善を図ります。また、各活動における内部研修を充実・強化し、SWA組織全体への技術浸透も図っていきます。

特集

- トピックス
- 最新情報（人・イベント）
- SWA職員紹介
- アビアの街角から
- コラム



プロジェクト活動計画について協議するSWA職員と高良チーフアドバイザー（写真中央）

¹ 梶原健次（かじわら・けんじ）：宮古島市役所上下水道部に所属時、草の根技術協力「サモア水道事業運営（宮古島モデル）支援協力」（2010-2012）のプロジェクトマネージャーとして、地域に合った技術支援をモットーに事業の推進に大きく貢献。今年4月、同市農林水産部水産課への異動後も、本プロジェクトの国内支援委員の一人として、プロジェクト全般に対する助言等を行う。博士（水産学）。

² 無収水率：給水量のうち料金徴収の対象とならなかった水量や漏水・盗水・メーター誤検針等による水損失量をパーセンテージで表記したもの。SWAが定義する無収水率には、一部の地域に適用されている“定額制”使用水量も含まれます。

最新情報（人・イベント）

（１）沖縄市水道局 田場努さん サモア派遣へ準備着々



11月17日（月）から12月18日（木）まで、沖縄市水道局の田場努（たば・つとむ）さんがサモアに派遣されます。今回田場さんが主に指導するのは、水圧管理。

首都アピアがあるウポル島は、火山岩によって形成された島で、高低差が激しく、また、自然流下による配水システムとなっています。そのため、適切な水圧管理が行われないと、水道管に過剰な圧力がかかり、その圧力に耐え切れない管は破裂し、漏水が生じてしまいます。適切な水圧管理により、給水圧力の均等化を図ることが可能となり、漏水防止にも繋がります。サモア派遣を前に、田場さんに今の心境を伺いました。

「いよいよだなと感じながら毎日を過ごしています。勤務先の沖縄市水道局職員の心強いサポートに改めて感謝し、18年間培ってきた経験や知識が少しでもサモアの水道技術の向上に役立てられるよう、高良チーフアドバイザー、サモア水道公社のスタッフ、そして沖縄県内の水道事業体が一体となり素晴らしい成果が上げられるよう、微力ながら頑張っていきたいです」

SWAは、田場さんの専門的な知見や経験に基づいた指導を通じ、職員の能力向上だけでなく、高い無収水率の改善に必要な対応すべき課題の優先順位付けを行いたいと、田場さんの活動に大きな期待を寄せています。田場さんの現地活動の様子については、次号で紹介します。

（２）第1回JCC（Joint Coordination Committee） 合同調整委員会の開催日決定

今月20日（木）に、第1回JCC（合同調整委員会）を開催することになりました。JCCは、SWA総裁を議長とし、プロジェクトに関連するサモア政府機関及びJICA関係者で構成され、活動の計画や進捗管理、プロジェクト実施中に起こり得る様々な事態や対応等について共有・報告し、参加メンバーからの承認を得る重要な会議です。

第1回目の今回は、プロジェクトの概要やSWA側の実施方針、プロジェクトチームによる活動計画や達成目標設定値の報告などが予定されており、現在その準備が進められています。第1回JCC結果についても、次号で紹介します。

（３）福山商事（株） 湊直さん 青年海外協力隊してます “One more helper from Japan arrives”

沖縄県浦添市に本社を構える福山商事（株）は、将来的な大洋州地域へのビジネス参入の具体化に向け、（株）隆盛コンサルタント、（株）沖電システムとともに、ODA（政府開発援助）を活用した中小企業等海外展開支援事業「民間提案型普及・実証事業」（伏流水取水法の導入）をサモアで実施中です。

また、同社ではグローバル化に対応できる社員育成を図る目的で「JICA民間連携ボランティア制度」を活用し、先月2日より、同社社員の湊直（みなと・なお）さんがサモアに派遣されています。同月29日（水）付の地元紙「サモアオブザーバー」には、湊さんのサモア着任を知らせる記事が大きく取り上げられました。湊さんは、地元NGO団体においてデータベース管理の指導を行いながら、サモアでの人脈を広げつつ、沖縄とサモアをより身近に繋げる役割も期待されます。記事の内容は、同紙インターネット版でも確認できます。



サモア'sTyLe

衣・食・住から喜・怒・哀・楽まで、サモアライフを垣間見てみましょう。

今回のテーマは“ランチ飯”。どんなサモア料理が食べられるのかと思いきや、ランチを提供するほとんどの食堂は中華系です。海外（旅行）では、食に困った時は“中華”を目指せば間違いないですが、サモアの中華も普通に美味しく、お昼時はどこも地元サモア人で一杯です。

どの食堂も同じようなシステムで、調理済みのおかず5～10種類の中から好きなものを選んで注文します。2品も頼めば、お皿と一緒に乗ってくるライスも併せて山盛りに。1品当たり3～4タラしますので、ランチの相場は7～10タラと言ったところでしょうか。

（1タラ＝48円／2014年10月）

ライス代わりにタロ（イモ）も注文できますので、ついでにココナッツジュースを頼めば、すっかり“サモア飯”に変身です。



➡本日のランチ。野菜炒めに、フライドチキン、バナナ、ライスを加えてみました。（7タラ）



サモア水道公社
Samoa Water
Authority
(SWA)

設立：1993年

職員数：約250名（2014年9月末）

給水人口：約16万人

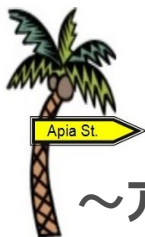
組織構成：理事会及び総裁ポストの下にある8部門から成る。カッコ内の数字は職員数。

1. 総務課（19）
2. 経理課（64）
3. 市街課（44）
4. 地方課（40）
5. 工務課（18）
6. サヴァイ島課（53）
7. 下水道課（9）
8. コミュニケーション&IT課（3）

➡本プロジェクトでは、アラオア給水区の維持管理を担当する市街課を中心に、工務課及びその他の課とも連携しながら活動を進めていきます。

【SWAスローガン】

Water for Life
 = Suavai mo le ola
 = 命のための水



～アピアの街角から～

本プロジェクトの対象給水区となっているアラオア給水区は、政府機関から商業施設、病院、学校、住宅までが並び、首都アピアをカバーする10給水区の中で最も給水人口（約1.8万人）が多い給水区です。このアラオア給水区に「安全な水が安定的に供給されることがプロジェクトの目標ですが、実際にアラオア給水区ではどのような水問題が起こっているのか、そこで生活する住民に話を聞いてみました。



名前：ジェリー・サマニア
 年齢：48
 職業：タクシー運転手
 住まい：フガレイ地区
 同居：8人（妻、娘4人、義妹夫婦）
 最近ハマっていること：
 キーボードの練習

－生活する中で、今、水で困っていることはありますか？

「100%OKとは言い難いですが、今のところ水は出ますので、特に問題はありません」

－“100%OK”でない理由とは？

「たまにですが、蛇口から出る水が汚れていることがあります。特に雨季。水道料金はきちんと払っていますが、汚れた水が出続けると、『何でこれにお金を払うの？』と思うこともありますね。ちなみに飲料用の水は購入しています」

－アラオア給水区の水は、きちんと浄水処理された水ですが。

「残念ながら100%信用していません。きれいで安全な水がいつも出るように、SWAにはもっと頑張ってもらいたいです」



「やるべきことはたくさんあります」と語る SWA総裁のジェイミー氏。

SWA職員紹介（vol.1）

総裁 セウガマリイ・ジェイミー・サエナ

SWAは、職員約250名を抱える大所帯ですが、このコーナーでは、主にプロジェクトに関わる職員を中心に紹介していきます。第1回目は、今年4月より、37歳という若さでサモア水道公社のトップ（総裁）に就任したセウガマリイ・ジェイミー・サエナ氏です。

~~~~~

皆さん、はじめまして。ジェイミー・サエナと申します。本プロジェクトの実施において、SWAを支援頂いている日本の皆さん、沖縄の皆さん、そして貴重な資源である“水”の供給を通じ、サモアに多大なる支援を頂いている日本国政府に対し、心より感謝申し上げます。また、我々の職員が日本（沖縄）の水道事業運営の経験を学ぶためにそちらに伺った際、皆さんから受けた優しさやホスピタリティ精神に対し、この場を借りて改めてお礼申し上げます。  
 “アリガトウ ゴザイマシタ”

無収水はSWAの業績評価を計る重要な指標の一つで、我々にとって最優先事項です。無収水対策を含む各分野の能力強化及びそれぞれの専門家による指導により、プロジェクトの目標が達成されることを切に願っています。そのためにも、我々自身もプロジェクトをサポートし、貴重な水資源を利用できるよう積極的な役割を果たしていきたいと考えております。

Seugamaalii Jammie Saena：シドニー工科大学卒（土木環境工学専攻）。1998年SWA初採用後、漏水探知チームリーダー、プロジェクトエンジニア、下水道課長を経て、今年4月より総裁に就任。名前（Jammie/ジェイミー）の前にある“Seugamaalii”は、彼女のマイ（タイトル）ネーム。

## コラム 「サモアにあるオキナワ」



見るもの、食べるものなど少しでも故郷沖縄に似ているものがあれば、つい、「沖縄に似ているね～」と言ってしまふのはウチナーンチュ（沖縄人／筆者）の性格なのかもしれない。「サモア」と聞いて、具体的な場所を指し示すことができるのは、沖縄に、日本に、そして世界にどのくらいいるだろうか。私自身、最初は「太平洋のどこかに浮かぶ南の島だろう」と、何となくしかイメージできなかったものである。とは言え、真っ青な空と熱帯特有の濃い緑は、私の想像していた「南の島」であり、魚市場に並ぶカラフルな魚は那覇の公設市場を、道路が整備されていない路地裏を走れば、沖縄本島北部の山原（やんばる）を思い起こす風景が目の前に広がっている。

サモア人と夕食を共にした時のこと。お互いの地元の言葉で、「～は何と言うか」という話になった。まずは“魚”。サモア語で “イア (i'a) ” と言うそうだ。ウチナーグチ（沖縄方言）では“イユ”と言う。“イア”と“イユ”。では、沖縄の家庭でよく食される“豚”はどうだろう。サモア語では“プア (pua'a) ”とのこと。ウチナーグチでは“ワー”、“ウワー”と言う。文字に表わすと全く異なる2つの言葉だが、それぞれの語尾に共通する長母音“ア”の響きに、サモアと沖縄の接点を見出そうとする自分は、やはりウチナーンチュなのだろう。「昔々、サバニに乗ったウミンチュ（海人）は、沖縄から8,000km離れたここサモアまで来たに違いない。。。」「と、それでも理屈をこじつけ、男のロマンに想像を膨らませるのは何とも面白いものである。

もう一つ、サモアのオキナワを紹介したい。写真に写っているのは、2011年に沖縄で水道研修を受けたロスとその娘。たまたま会った街なかのスーパーで、お互いの近況を報告し、連れていた愛娘を紹介してくれた。「この子のミドルネームは“オキナワ”だよ」、恥ずかしげに挨拶をしてくれた女の子を見て、3年前を思い出す。当時、JICA沖縄で研修を担当していた私は、研修も終盤に差し掛かった頃、「予定より早く子供が生まれそうなので、できれば早めに帰国したい」と、彼から相談を受けた。諸般の事情を考慮し、変更可能なフライトがあればと、彼の早期帰国を検討したものの残念ながらフライトが見つからなかった。結局、ロスは最後まで研修を続け、帰国の途に就いた。あれから3年、その時の女の子が目の前にいる“オキナワ”ちゃんなのだ。私にとっても感慨深い出会いであり、そして再会であった。



帰国研修員のロスと、その愛娘  
“オキナワ”ちゃん

昨年9月、沖縄で研修を受けたJICA研修員の数は10,000人に到達したそうだ。研修員本人はもちろんのこと、その家族も何らかの形で“オキナワ”を受け継いでいるケースがあることを、ここ太平洋の南の島・サモアで知ることができた。

(文・写真／トミヤマ)

Ross Neufeldt : 2011年課題別研修「島嶼における水資源保全管理」に参加した元SWA職員。研修参加時は、地方課(Rural Div.)に所属。数か月前にSWAを退職し、今月下旬からニュージーランドで働きに行くという。「まずは一人で頑張って、その後家族を呼びたい。」と、これからの抱負を語ってくれた。

### 次号掲載予定

- ・田場専門家の活動進捗
- ・JCC会合結果
- ・SWA職員紹介
- ・チーム沖縄
- ・その他

### お問い合わせ先

本プロジェクトに関するご意見、ご質問、ご感想等がありましたら、以下のメールアドレスまで送付ください。

#### CEPSO プロジェクト

✉ : cepsopj@gmail.com

☎ : (+685) 770.2440